

政策分野16 高齢者福祉

～「健康長寿のまち・京都」をみんなで作る～

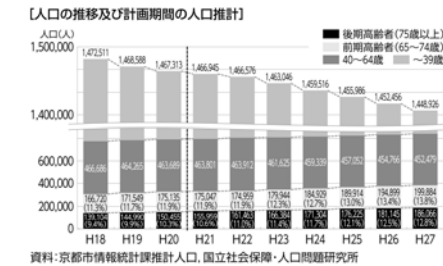
基本方針

いわゆる「団塊の世代」が高齢期を迎え、今後、介護給付費の増大が想定されるなか、高齢者自身が就労や社会参加を通じた生きがいがづくり、健康づくりを進め、活力あるまちづくりを推進する。また、介護を必要とする高齢者が住み慣れた地域で生活できるよう、介護・医療施設等の面的な整備に取り組むとともに、地域住民参加型の見守りネットワークを構築し、地域全体で高齢者を支えるしくみづくりを推進する。

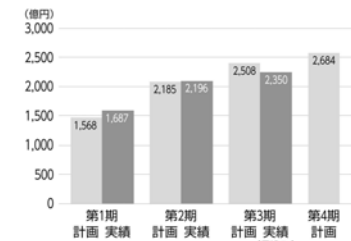
現状・課題

- 多様な価値観をもった「団塊の世代」をはじめとする元気な高齢者が増加するなか、就労やさまざまな社会活動への参加を通じて自己実現を図れるよう環境整備を進めることによって、明るく活力ある長寿社会を実現していく必要がある。
- 平成18年度以降、介護予防重視型システムへの転換が図られ、介護予防の普及啓発に努めてきたところであるが、今後、一層、自主的な介護予防の取組が市民の間で広まることが求められている。
- 開始10年目を迎えた介護保険制度は、長寿化の進展をはるかに上回る勢いでサービスを必要とするひとが増加するなど、深く市民生活に浸透し、「介護の社会化」に寄与しており、なくてはならない制度に成長した。
- 今後、約8万人の「団塊の世代」が順次高齢期を迎え、急激に長寿化が進展することに伴い、介護給付費の増大やこれに伴う介護保険料の上昇等が想定される。
- 住み慣れた地域での高齢者の生活を24時間・365日切れ目なく支えられるよう地域密着型サービスの整備や居宅サービスの充実にも努めるとともに、特別養護老人ホームをはじめとする入所施設のニーズに対応していく必要がある。
- 長寿化や核家族化が進展するなか、地域における自主的な活動と行政の支援とが一体となって、支援を必要とする高齢者を地域全体で支えるネットワークづくりを進めているが、今後、関係機関の連携により認知症やひとり暮らしの高齢者への対応を一層強化していくことが求められる。

◆高齢化率は年々上昇



◆増加する介護給付費



◆平成18年度介護保険制度改革のポイント

- 軽度の要介護高齢者の増加
⇒「介護予防重視型システムへの転換」
- 認知症高齢者やひとり暮らし高齢者の増加
⇒「新たなサービス体系の確立」
・小規模多機能型居宅介護拠点等の地域密着型サービスの創設
・地域の中核機関である「地域包括支援センター」を設置

資料：厚生労働省パンフレット等

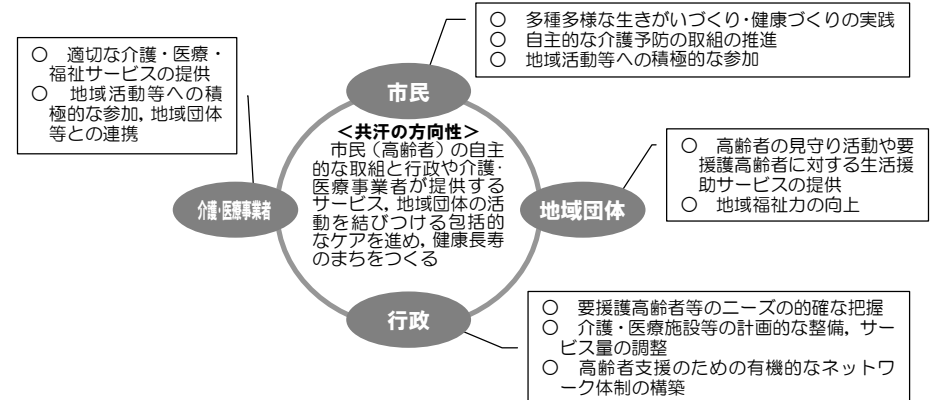
みんなでめざす10年後の姿

- 1 高齢者の尊厳が保たれ、心身ともに健康で充実した「幸」年齢期を送っている
知恵や経験豊かな高齢者を市民が敬う心を持ち、世代を超えた支え合いによって、高齢者ひとりひとりが尊厳を保ち、どのような心身の状態にあっても、高齢者自身の決定によって心身ともに健康で充実した「幸」年齢期を送ることができている。
- 2 高齢者の知恵や経験、技能を生かすことによって、活力のある長寿社会が実現されている
高齢者がこれまでに培ってきた知恵や経験、技能を就労や社会参加に生かすことや、日常生活のなかでの自発的な介護予防の取組が広がることによって、活力のある長寿社会が実現され、京都に息づく文化が次の世代へと継承されている。
- 3 高齢者を支えるネットワークの構築を進めることによって、安心して生活できている
京都の強みである「自治の精神」を生かし、地域における関係団体等による見守り・福祉活動と、保健福祉サービス、介護・医療施設等との有機的なネットワークの構築を進め、若年性を含む認知症のひとり暮らしの高齢者等が孤立することなく、「地域による見守り」を実感しながら、安心して生活できている。
- 4 介護サービスの充実によって、そのひとらしい豊かな生活を送っている
居宅サービスの充実や、小規模で家庭的な介護拠点施設及び高齢者が住みやすい住環境の整備を推進すること、特別養護老人ホーム等の介護施設を整備することで、満足度の高いサービスを提供し、だれもが住み慣れた地域で社会との関係を保ちつつ、そのひとらしい豊かな生活が続けられている。
- 5 介護現場が魅力的な職場となることによって、職員がやりがいをもって活躍している
「学生のまち・京都」の特色を生かした、大学等の介護人材の養成機関との連携や、介護職員に対するキャリアアップの取組を進めることによって、介護の現場が魅力ある職場となり、現場で働く職員が、やりがいや使命感をもって、いきいきと活躍できている。

<参考>政策指標例

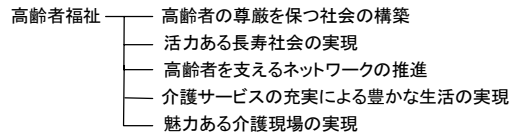
- ◆認知症あんしんサポーター登録者数 15,581人^(H20) → 5万人^(H26)
- ◆入所系介護保険施設定員数 11,428人^(H20) → 13,598人^(H26)
- ◆介護職場での就労を希望するひとの数 1,849人^(H20) → 3,700人

市民と行政の役割分担と共汗



推進施策

施策の体系



1 高齢者の尊厳を保つ社会の構築

(1) 世代を超えて支え合う意識の共有

より豊かな高齢期を迎えるために、すべての市民が高齢期における豊かな生活を感じることできる取組を行うことで、市民が知恵や経験豊富な高齢者を敬う心を持ち、世代を超えて支え合う社会の構築を推進する。

(2) 高齢者に対する権利擁護の推進

認知症や高齢者虐待、孤独死などの問題に対して、さらに積極的な対応を行うために、地域包括支援センターと地域住民との一層の連携や、権利擁護に関する支援体制の推進を図っていくことで、高齢者の尊厳が保たれる社会の構築を推進する。

2 活力ある長寿社会の実現

(1) 高齢者の生きがいづくり及び就労の推進

高齢者のライフスタイルに応じた生きがいづくり及び就労を推進するために、高齢者の多様性・自主性を尊重しながら、高齢者の知恵や経験、技能を、就労や社会参画など、社会の様々な分野に生かす取組を通じて、活力ある長寿社会を実現していく。

(2) 自発的な介護予防の取組の推進

高齢者が要介護状態になることを可能な限り予防するとともに、要介護状態になっても状態が悪化しないよう維持・改善を図るため、日常生活の中での自発的な介護予防の取組を通じて、高齢者が主体的に取り組む健康づくりを推進し、活力ある長寿社会を実現していく。

3 高齢者を支えるネットワークの推進

(1) 高齢者を地域で見守るネットワークの推進

高齢者が孤立することなく、「地域による見守り」を実感しながら、安心して生活するために、京都の強みである「住民自治の精神」を生かした高齢者を支えるネットワークの構築を一層進めることで、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できるよう推進する。

(2) 地域包括ケアシステムの構築

高齢者ができる限り居宅において生活を続けるために、生活上の安全・安心・健康を確保するための多様なサービスを24時間365日身近な地域で提供(これを「地域包括ケアシステム」という。)するとともに、地域包括支援センターと地域住民との連携を一層図っていくなかで、高齢者が住み慣れた地域でいきいきと生活できるよう推進する。

4 介護サービスの充実による豊かな生活の実現

誰もが住み慣れた地域でより満足度の高いサービスを受けられるようにするために、必要なサービスや施設のニーズを把握したうえで、居宅サービスの充実や、介護施設の整備を進めていくことなどで、その人らしい豊かな生活を実現していく。

5 魅力ある介護現場の実現

やりがいや使命感を持ち、いきいきと働ける魅力ある介護現場の実現のために、大学等の介護人材の養成機関との連携や、キャリアアップの取組を進めることで、介護の現場が更に夢や希望が持てる魅力ある職場となるよう推進する。

関連する分野別計画

京都市民長寿すこやかプラン（平成 21 年度～平成 23 年度）